

ドイツ語圏ではなぜ競技スキーが人気なのか ～日本とドイツ・オーストリア・スイスとの比較～

総合政策学部3年 内田雪

【背景・現状】

- 私がアルペンスキーの選手であり、競技スキーの衰退を感じているため
- 日本
 - ・女子アルペンは2大会連続（バンクーバー、ソチ）日本からの派遣なし
 - ・女子アルペンワールドカップでは30番前後には入る
 - ・ジャンプやクロスカントリーは入賞できる選手がいるためメディア露出は増えているが、競技人口は増えていない
 - ・モーグル、ハーフパイプなどのフリースタイル種目のメディア露出が増えたとともに競技人口が増加
- 欧州
 - ・ワールドカップ総合優勝者はほぼ欧州人
 - ・生涯スポーツという地位が確立されている

【目的】

今後の日本におけるスキーの発展・振興を考える。

そこから、他のメジャーであったがマイナーになってしまったスポーツの発展や振興に貢献することもできる。

【仮説】

- ・文化的にスキーに対する意識の差
- ・スキーをすることへの環境（練習、設備、自然）の差
- ・欧州ではお金持ちしかやっていない

【手法】

- インタビュー調査
 - ・競技スキーワールドカップ（アルペン、ジャンプ、ノルディック）に行き、観客へのインタビューをする。（質問事項：年齢、性別、出身地、頻度、理由、モチベーション）
 - ・組織側（SAJ, IOC, 欧州のスキー組織）へ現状のリアルな話を聞く。
- 文献調査
 - ・文化の差によるスポーツの現状のようなテーマの本

【今学期中のプラン】

- ① スキーというものを様々な要素・方向から見るマッピング作成
- ② 日本における現状リサーチ
- ③ 日本での文献調査
- ④ 日本のトッププレイヤーへのインタビュー

【留学中のプラン】

- 授業
- ⑤ Basiskompetenz, Kommunikationen, Medien und Management: Einführung in die Sportpublizik→研究分野へ補完
- ⑥ ドイツ語能力の向上

- フィールドワーク
- ・ワールドカップでの観客インタビュー
- ⑦ ドイツ、オーストリア、スイスのナショナルチームへのインタビュー
- ⑧ ワールドカップ開催をするスキー場の特徴を調べる

【参考文献】

まだありません。